

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-323066

(43)公開日 平成8年(1996)12月10日

(51)Int.Cl.
B 26 B 21/40
21/52

識別記号 庁内整理番号

F I
B 26 B 21/40
21/52技術表示箇所
A

審査請求 未請求 請求項の数9 FD (全6頁)

(21)出願番号 特願平7-158436

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(22)出願日 平成7年(1995)6月1日

(72)発明者 馬部 健
神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会社資生堂第1リサーチセンター内

(72)発明者 久永 保二

東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内

(72)発明者 小田 緑里

東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内

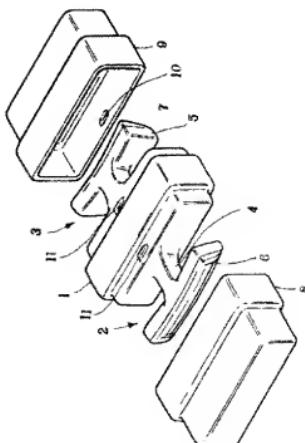
(74)代理人 弁理士 竹内 裕

(54)【発明の名称】 携帯用かみそり

(57)【要約】

【目的】 使用性を損なうことなく携帯性を高くできる安全性に優れた携帯用かみそりを提供する。

【構成】 ホルダの両端部に剃刀を有するヘッド部をそれぞれ設け、該ヘッド部を個別に被覆するキャップをホルダに着脱自在に嵌着したことを特徴とする携帯用かみそり。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホルダの両端部に刺刃を有するヘッド部をそれぞれ設け、該ヘッド部を個別に被覆するキャップをホルダに着脱自在に嵌着したことを特徴とする携帯用かみそり。

【請求項2】 ヘッド部をハンドルを介してホルダに取り付けたことを特徴とする請求項(1)記載のかみそり。

【請求項3】 ホルダが略く字状に屈曲して形成されていることを特徴とする請求項(1)又は(2)記載のかみそり。

【請求項4】 ホルダが弓形に弯曲して形成されていることを特徴とする請求項(1)又は(2)記載のかみそり。

【請求項5】 少なくとも一方のヘッド部に刺刃が膨出弯曲して取り付けられていることを特徴とする請求項(1)記載のかみそり。

【請求項6】 少なくとも一方のヘッド部に、刺刃が凹入弯曲して取り付けられていることを特徴とする請求項(1)記載のかみそり。

【請求項7】 一方のヘッド部に刺刃が膨出弯曲して取り付けられ、他方のヘッド部に刺刃が凹入弯曲して取り付けられていることを特徴とする請求項(1)記載のかみそり。

【請求項8】 刺刃が交換自在であることを特徴とする請求項(1)(5)(6)又は(7)記載のかみそり。

【請求項9】 一方のキャップの閉塞端に、他方のキャップの開放端を嵌合、接続自在としたことを特徴とする請求項(1)記載のかみそり。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は携帯用のかみそりに係り、特に、使用性を損なうことなく携帯性を高くした携帯用のかみそりに関するものである。

【0002】

【從来の技術】 従来の携帯用かみそりとしては、例えば図8に示したように板状をなすハンドルAの先端部に刺刃Bを挟み込み保持させたもの、図9に示したように丁字状をなすハンドルAの先端に設けた刃台Cに刺刃Bを取り付けたものの、図10に示したように刃台Cに形成された取付面を凸状に膨出弯曲させることにより、刺刃Bを膨出弯曲させた状態で保持させて身体の凹部などの剃毛性を高くしたもの。あるいは、図11に示したようにハンドルAのグリップ部Dを刃台Cの端と同程度まで広くして使用時におけるハンドルAの操作性を高くするようになしたものがある。

【0003】 しかしながら、これらの従来品はいずれもハンドルが一体型であるために、使用時の操作性を高くすべくハンドルAの全長を大きくすると携帯性が損なわれるという不具合があつた。また、これらのものはいずれも刃台Cに取り付けた刺刃Bが露出したままであるために、従来では例えば図12に示したように刃台Cと

もに刺刃Bの刃縁を覆うキャップEを取り付けて不使用時の安全性を確保していた。Fは刺刃Bを刃台Cに取り付けるための突起である。しかしながら、このように刃台Cとともに刺刃Bの刃縁を覆うキャップEを取り付けて不使用時の安全性を確保するようにしたものにおいては、キャップEの着脱を行う必要性があるので面倒であり、しかも、キャップEの着脱時に刺刃Bの近傍をさわってしまったために、ガード付きの刺刃を取り付けている場合においても手を切る可能性があった。

10 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は上記実情に鑑みてなされたものであって、使用性を損なうことなく携帯性を高くできる安全性に優れた携帯用かみそりを提供することを課題としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために本発明は、ホルダの両端部に刺刃を有するヘッド部をそれぞれ設け、該ヘッド部を個別に被覆するキャップをホルダに着脱自在に嵌着したことを特徴とする。

20 【0006】 又、ヘッド部をハンドルを介してホルダに取り付けたことを特徴とする。

【0007】 更に、ホルダが略く字状に屈曲して形成されていることを特徴とする。

【0008】 更に、ホルダが弓形に弯曲して形成されていることを特徴とする。

【0009】 更に、少なくとも一方のヘッド部に刺刃が膨出弯曲して取り付けられていることを特徴とする。

【0010】 更に、少なくとも一方のヘッド部に、刺刃が凹入弯曲して取り付けられていることを特徴とする。

【0011】 更に、一方のヘッド部に刺刃が膨出弯曲して取り付けられ、他方のヘッド部に刺刃が凹入弯曲して取り付けられていることを特徴とする。

【0012】 更に、刺刃が交換自在であることを特徴とする。

【0013】 更に、一方のキャップの閉塞端に、他方のキャップの開放端を嵌合、接続自在としたことを特徴とする。

【0014】

【作用】 上記のように構成した携帯用かみそりにおいて、かみそりを使用しない時は各ヘッド部をホルダの端部に冠着したキャップでそれぞれ覆ってヘッド部を被覆して安全性を確保している。

【0015】 ホルダを弓形又は略く字状に形成することにより、ホルダを把持して手足やボディを剃毛する際のかみそりの保持性と作業性が向上する。

【0016】 かみそりを使用する時は使用部断の形状に適合する側のヘッド部を覆うキャップをホルダから取り外して他方のヘッド部を覆うキャップの先端に接続嵌合させてかみそりの全長を拡大させる。すなわち、腕あるいは脚のように身体の突出部位に使用しようとする場合

50

は、剃刃を凹入溝曲させて取り付けているヘッド部を覆うキャップを取り外して他方のヘッド部を覆うキャップの先端部に接続嵌合させるが、異なるように身体の凹入部位に使用する場合は、剃刃を膨出溝曲させて取り付けているヘッド部を覆うキャップをホルダから取り外して他方のヘッド部を覆うキャップの先端部に接続嵌合させる。

【0017】このように、かみそりを使用しようとする部位の形状に適したヘッド部のみを露出させて他方のヘッド部をキャップで覆いつつ、取り外したキャップをホルダに残されているキャップの先端部に接続嵌合させてかみそりの全長を拡大させるよう正在するため、携帯用かみそりの使用部位を損なうことなく使用部位を多様化することができる。なお、ヘッド部全体をキャップによって覆うように正在するため、キャップの着脱時ににおける安全性がより高くなる。

【0018】

【発明の効果】本発明によれば、剃刃を膨出溝曲させて取り付けたヘッド部と凹入溝曲させて取り付けたヘッド部を同一のホルダの両端に設け、ホルダの両端部に一对一のキャップを着脱可能に冠着してヘッド部をそれぞれ被覆しているために、かみそりを使用しない時は両ヘッド部をそれぞれキャップで覆って安全性を確保することができる。

【0019】手足やボディを剃毛する際のかみそりの保持性と作業性が向上するため、剃毛作業が容易で安全性が高くなる。

【0020】また、毛をそり落とそうとする部位の形状に適したヘッド部を覆うキャップのみをホルダから取り外して他方のヘッド部を覆うキャップの先端部に接続嵌合させてかみそりの全長を拡大できるよう正在するため、携帯用かみそりの使用部位を多様化することができるとともに、使用性が損なわれることもない。

【0021】

【実施例】以下に本発明の実施例を図に基づいて詳細に説明する。図1は本発明に係る携帯用かみそりの一実施例を示す分解斜視図、図2は同じく不使用時の斜視図、図3は一方のキャップを取り外して他方のキャップの先端部に接続嵌合させた状態の斜視図、図4は逆のキャップを取り外して他方のキャップの先端部に接続嵌合させた状態の斜視図、図5は図2の一部を破断した平面図、図6は図3の一部を破断した平面図、図7は図4の一部を破断した平面図である。

【0022】これらの図において、ホルダ(1)の両端面にはそれぞれ一对一のヘッド部(2)(3)を配設している。ホルダ(1)およびヘッド部(2)(3)のハンドル(4)(5)をそれぞれ硬質の合成樹脂材料で一体に成型しており、各ハンドル(4)(5)の先端面にそれぞれ剃刃(6)(7)を取り付けている。ホルダ(1)、ヘッド部(2)(3)及びハンドル(4)(5)は必ずしも一体とする必要はなく、ハンドル(4)(5)

(5)とホルダ(1)及びヘッド部(2)(3)いずれか又は全てを別体に形成して、組み付けるようしても良い。又剃刃(6)(7)はヘッド(2)(3)若しくはハンドル(4)(5)と共に或は剃刃(6)(7)のみを交換自在としても良い。

【0023】また、各ヘッド部(2)(3)を個々に覆うキャップ(8)(9)をホルダ(1)の両端部に着脱可能に冠着保持させている。なお、各ヘッド部(2)(3)を覆うキャップ(8)(9)の開口縫内側面に凹部(10)を設けるとともに、この凹部(10)に適合する凸部(11)をホルダ(1)の端部近傍

表面に設けることにより、キャップ(8)(9)をホルダ(1)の端部に弹性保持させることができるようにしている。さらに、キャップ(8)(9)を全体として段付状に形成することにより、ホルダ(1)から取り外したキャップを他方のキャップの先端部に接続嵌合してかみそりの全長を確保できるよう正在している。

【0024】上記のように構成した携帯用かみそりにおいて、かみそりを使用しない時は図2および図5に示したように両キャップ(8)(9)をそれぞれホルダ(1)の端部に冠着して両ヘッド部(2)(3)をそれぞれ被覆している。

20 従って、かみそりの不使用時はヘッド部(2)(3)の全体がキャップで被覆されるために携帯性および安全性が確保される。

【0025】一方、かみそりを使用する時は使用部所の形状に適合する側のヘッド部を覆うキャップをホルダから抜き取ってヘッド部を露出させつつ、取り外したキャップを他方のキャップの先端部に接続嵌合させてかみそりの全長を確保する。

【0026】すなわち、腕などのように身体の凹部の毛をそり落とそうとする場合は、図3および図6に示したように剃刃(6)が膨出溝曲状態で取り付けられているヘッド部(2)を覆うキャップ(8)を取り外して他方のキャップ(9)の先端部に接続嵌合させる。また、腕あるいは脚などのように身体の凸部の毛をそり落とそうとする場合は、図4および図7に示したように剃刃(7)を凹入溝曲させて取り付けているヘッド部(3)を覆うキャップ(9)を取り外して他方のキャップ(8)の先端部に接続嵌合させる。

【0027】このように、かみそりを使用しようとする部位の形状に適した一方のヘッド部を覆うキャップのみをホルダから取り外して他方のキャップが先端部に接続嵌合させることにより、携帯用かみそりの使用部位を多様化することができる。なお、使用しない側のヘッド部はキャップによって覆われ続け、しかも、取り外したキャップを残されているキャップの先端に接続嵌合させてかみそりの全長を確保するために、かみそりの使用性を損なうことなく安全性を確保できる。

【0028】なお、実施例ではホルダ(1)とキャップ(8)(9)を凹部(10)と凸部(11)によって係止するよう正在しているが、単なる強制嵌合でキャップ(8)(9)をホルダ(1)に着脱可能に冠着保持させることもできる。

【0029】図8、9はこの発明の他の変形を示し、ホルダ(1)が略く字状に屈曲して形成されていることを特徴とする。その他の点は、前記図1～7に示す実施例と実質的に変わりはない。又、略く字状に屈曲させるのに代って、弓形に弯曲いた形状に形成しても良い。このようにホルダ(1)をく字状若しくは弓形にすることにより、ホルダ(1)の把持が容易で確実となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る携帯用かみそりの一実施例を示す分解斜視図である。

【図2】図1に示した携帯用かみそりの不使用時の斜視図である。

【図3】一方のキャップを取り外して他方のキャップの先端部に接続嵌合させた状態の斜視図である。

【図4】逆のキャップを取り外して他方のキャップの先端に接続嵌合させた状態の斜視図である。

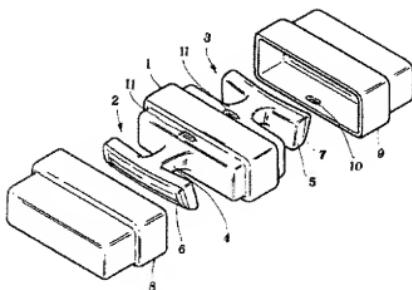
【図5】図2の一部を破断した平面図である。 *

* 【図6】図3の一部を破断した平面図である。
【図7】図4の一部を破断した平面図である。
【図10】かみそりの従来例を示す斜視図である。
【図11】かみそりの従来例を示す斜視図である。
【図12】かみそりの従来例を示す斜視図である。
【図13】かみそりの従来例を示す斜視図である。
【図14】かみそりの従来例を示すヘッド部の断面図である。

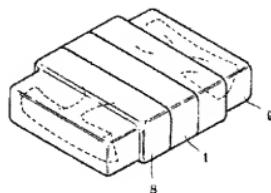
【符号の説明】

- 10 (1) ホルダ
- (2)(3) ヘッド部
- (4)(5) ハンドル
- (6)(7) 刃刃
- (8)(9) キャップ
- (10) 凹部
- (11) 凸部

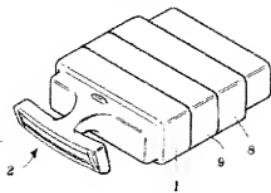
【図1】



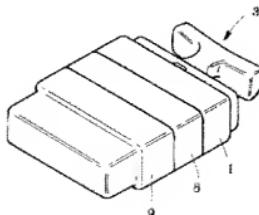
【図2】



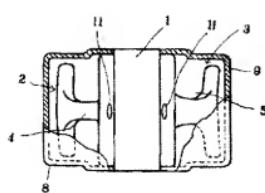
【図3】



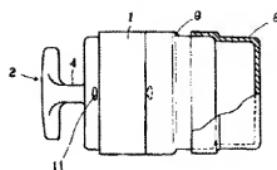
【図4】



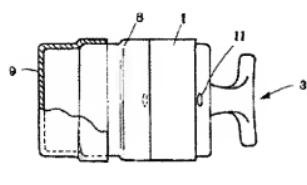
【図5】



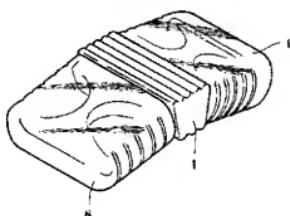
【図6】



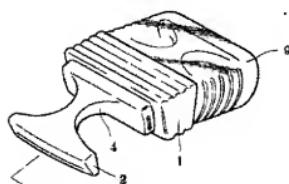
【図7】



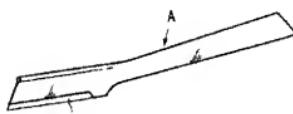
【図8】



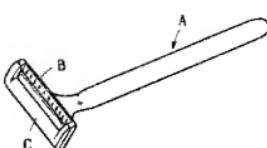
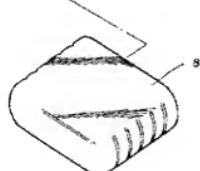
【図9】



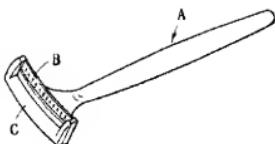
【図10】



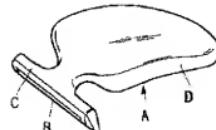
【図11】



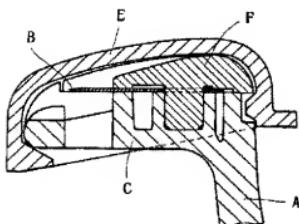
【図12】



【図13】



【図14】



【手続補正書】

【提出日】平成7年10月19日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る携帯用かみそりの一実施例を示す分解斜視図である。

【図2】図1に示した携帯用かみそりの不使用時の斜視図である。

【図3】一方のキャップを取り外して他方のキャップの先端部に接続嵌合させた状態の斜視図である。

【図4】逆のキャップを取り外して他方のキャップの先端に接続嵌合させた状態の斜視図である。

【図5】図2の一部を破断した平面図である。

【図6】図3の一部を破断した平面図である。

【図7】図4の一部を破断した平面図である。

【図8】—変形を示す斜視図

【図9】同使用状態の斜視図

【図10】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図11】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図12】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図13】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図14】かみそりの従来例を示すヘッド部の断面図である。

【符号の説明】

(1) ホルダ

(2) (3) ヘッド部

(4) (5) ハンドル

(6) (7) 刃刃

(8) (9) キャップ

(10) 間部

(11) 凸部